

### 女子高生・車座フォーラム 2015

12月26日(土)、京都大学にて「女子高生・車座フォーラム 2015」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画で、今回で10回目の開催となります。



山末英嗣 男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ 主査の司会進行のもと、稲葉カヨ 理事・副学長より開会の挨拶がありました。京都大学が女性の活躍を推進するために取り組んでいる男女共同

参画アクションプランやWINDOW 構想についての説明があり、また、試験勉強に励む高校生に対し、挑戦した結果の後悔は挑戦しない後悔よりもはるかに小さい、何事にも自信を持って対応してほしいと激励しました。最後に、この車座フォーラムが皆にとって有意義なものになることを願い、開会の挨拶を締めくくりました。



次に、川添信介 理事・副学長より、京都大学の概要についての説明がありました。京都大学の学風として「対話を根幹とした自学自習」、「自由の学風」を挙げ、京都大学は創立以来、人とのつながりの中で学ぶが、あくまでも一人で学ぶということを大事にしていると説明がありました。また、今回のフォーラムで、自分の本当にやりたいことが志望している学部でできるかどうか確かめてほしいと述べました。最後に、山極総長が京都大学をおもしろい大学と言われていることに因み、おもしろいことを探しに是非とも我々の仲間になっていただければ有難いと締めくくりました。



続いて、教育推進・学生支援部 入試企画課より、平成28年度学生募集要項、平成28年度から実施する特



色入試選抜の概要など、入試に関する説明がありました。

その後、宇宙総合学研究ユニットの浅井歩 特定准教授が「太陽研究の最前線」と題し、講演を行いました。

浅井先生は京都に生まれ育ち、中学高校は剣道に打ち込んでいましたが、理科が好きで漠然と宇宙に興味があったことから、宇宙について学びたいと京都大学理学部へ入学しました。入学後、



太陽物理学を知り太陽研究を始め、京都大学大学院に進学、博士課程終了後、国立天文台の観測所などを経て2010年に京都大学に着任しました。

京都大学は太陽を観測するのに適した望遠鏡を持っており、天文台が2つあります。京都市山科区にある花山天文台では、先生自身も観測した太陽のデータを解析し論文にしたことがあるそうです。もうひとつは、岐阜県高山市にある飛騨天文台で、最近は空気環境などから観測の拠点をこちらに移しており、太陽専門の望遠鏡で最先端の研究を行っているとのこと。このような設備のある京都大学は、世界的に見ても太陽研究するのに大変恵まれているとのこと。

先生は宇宙総合学研究ユニットに在籍していますが、このユニットは天文学に強い理学、宇宙工学に強い工学、宇宙倫理学や人類学などの人文社会学系まで、幅広い分野が連携する学際的な研究ユニットだということです。

先生は京都大学へ入学するまで、太陽については400年もの研究の歴史があり、すでに何もかも調べつ

## 京都大学を知ろう 研究者と語ろう

くされているものだと思っていたそうです。ところが、京都大学に入り太陽についてはまだわからないことがたくさんあるのだと知り、また、太陽の黒点の映像を見たときになんと複雑なのか、とそのダイナミックさに魅せられ、もっと太陽について知りたいという思いが太陽研究を始めるひとつのきっかけとなったそうです。先生は「このフレアは私の大好きなフレアです。」ととても楽しそうに太陽について説明をしながら、観測衛星が撮影した黒点の動画や太陽フレアの様子を紹介し、参加した高校生と保護者は大変興味深い様子で聞き入っていました。

京都大学の理学部は入ってから細かく自分の分野を選ぶそうですが、先生は入学後、太陽研究に興味を持ち、宇宙物理学教室で太陽をやりたいと思ったそうで、入学してから自分の分野を決めるというのが、先生にとってはよかったとのこと。宇宙物理学教室は大変人気の狭き門だということで、先生も、もし入れなかった場合のことを考えて他の分野の勉強もされていたそうです。結果、宇宙物理学教室に入ることができ、今日まで楽しく太陽研究を進めることができたとのこと。

先生が研究者として今思うことは、太陽の爆発現象は物理的にそのメカニズムだけが面白いのではないということです。研究を進めるうちに、実は、我々の文明生活にも影響を及ぼしている可能性があるということがわかり、太陽の研究を突き詰めることが私たちの生活に繋がっている、ということが今大変やりがいになっているそうです。また、先生が恵まれていると思うことは、総合大学である京都大学ならではの広い分野を研究できるということだそうです。太陽研究が宇宙天気という広い分野の中で社会に繋がり、新しい研究を通じて他分野の



方たちと繋がり、共同研究ができていることに恵まれていると感じるとのことです。

昼休憩後、講師の紹介、グループワークの説明があり、その後、高校生は希望学部別にグループ会場へ移動し、グループワークを行いました。グループワークでは、講師と学生スタッフが研究者の仕事や研究分野、学部選択や学生生活、就職などについて高校生の質問をもとに自身の経験を交えて話し、和気あいあいとした雰囲気の中、行われました。その間、保護者は稲葉理事の挨拶の後、京大生との交流会に参加しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。伊藤公雄 男女共同参画推進本部支援室長の司会で、グループワークで聞くことができなかった学部を超えた質問などに講師が答えました。「総合人間学部はどんなことをするのですか」「教育学部、総合人間学部、文学部の心理学は何が違うのですか。」「具体的な就職先はどこですか。」「専攻はいつ頃決めますか。」「NASA や JAXA で働くには理学部の物理学でしか学べませんか。」などたくさんの質問があり、それぞれの分野の講師が回答しました。また、質問の多かった女性研



## 2015年12月26日（土）京都大学医学部第一臨床講堂、他

究者としての立場や留学についても、それぞれの講師の経験や意見を語っていただきました。最後に、女性研究者支援のために男女共同参画推進センターで行っている取り組みを紹介し、今後も支援する体制を充実させ、皆さんの入学を待っていますと締めくくりました。

その後、入試企画課より入試に関する質疑応答を行い、プログラムを終了しました。



### 講師・グループ・会場

	氏名	所属	研究分野	会場
1	伊藤 公雄	文学研究科	文化社会学、メディア研究、ジェンダー論	医学部 G 棟 2F セミナー室 CD
	竹内 里欧	教育学研究科	教育社会学、文化社会学、歴史社会学	
2	木村 敦子	法学研究科	民法（とくに家族法）	芝蘭別館 1F 和室
	木元 小百合	経営管理研究部	地盤力学	
3	常見 俊直	理学研究科	理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携	医学部 G 棟 2F セミナー室 B
	浅井 歩	宇宙総合学研究ユニット	太陽面爆発現象（フレア）の観測的研究、宇宙天気研究	
4	船曳 康子	人間・環境学研究科	こころの発達	医学部 G 棟 2F セミナー室 A
	飯間 麻美	白眉センター・医学研究科	放射線診断学	
5	任 和子	医学研究科	生活習慣病看護学	医学部 G 棟 2F セミナー室 A
6	矢野 育子	薬学研究科	臨床薬学教育	医学部構内先端科学研究棟 1F 小セミナー室
7	杉野 未奈	工学研究科	耐震構造工学	芝蘭別館 2F 研修室 1
	山末 英嗣	エネルギー科学研究科	材料科学及び産業エコロジー	
8	中谷 加奈	農学研究科	砂防学	芝蘭別館 2F 研修室 2
	赤松 美紀	農学研究科	農薬化学（農薬などの人や環境に対する影響）	
9	幡野 恭子	人間・環境学研究科	植物細胞生物学、藻類学	芝蘭別館地下 会議室

### 学生スタッフ

	氏名	所属
1	鈴木 慎介	文学部
	田村 明日香	教育学部
2	改森 実奈	法学部
	副島 大知	経済学部
3	磯田 珠奈子	理学部
	安井 円香	理学部
4	西尾 周朗	医学部
	向平 妃沙	医学部
	藤川 詩織	医学部
5	勝島 倫子	医学部
6	加藤 夏己	薬学部
7	林 洋平	工学部
	村田 政弥	工学部
8	香月 和敬	農学研究科
	林川 晴大	農学部
9	小川 岳史	総合人間学部（理系）
	伊藤 香奈	総合人間学部（文系）

### プログラム

10:00-10:30	京都大学医学部第一臨床講堂 受付
10:30-10:35	開会の挨拶 (理事・副学長 稲葉カヨ)
10:35-10:55	京都大学の紹介 (理事・副学長 川添信介)
10:55-11:10	入試に関する説明 (教育推進・学生支援部 入試企画課)
11:10-11:30	女性研究者の講演「太陽研究の最前線」 (宇宙総合学研究ユニット 浅井歩)
11:30-13:00	昼休憩
13:00-13:30	講師紹介・グループワークの説明 (広報・相談・社会連携事業 WG 主査 山末英嗣)
13:30-13:50	移動 (休憩)
13:50-15:00	グループワーク「車座になって話そう」 【高校生】講師・京大生とのグループワーク 【保護者】京大生との交流
15:00-15:20	移動 (休憩)
15:20-15:50	まとめ (男女共同参画推進本部支援室長 伊藤公雄)
15:50-16:00	休憩
16:00-17:00	入試に関する質疑応答 (教育推進・学生支援部 入試企画課)

## 連載：研究者になる！－第54回－

### 感謝と初心を忘れずに

地球環境学堂・准教授 古川 愛子

工学部地球工学科の土木工学コースを卒業し、地震工学に関する研究に携わっています。

小さいときから理数科目が好きで、小学校5年生のときに既に、私は理系だな、とっていました。旅先で経験した1994年北海道東方沖地震と、その3か月後の1995年兵庫県南部地震の2つの地震をきっかけに、地震のことに興味を持ち、地球工学科を志望しました。4年生のときに、希望していた地震工学の研究室に入ることができたときは嬉しかったです。しかし、最初から研究者を目指していたわけではありませんでした。

工学部の学生のほとんどは大学院に進学します。しかし私は、家族の勧めもあって、地元の役所に就職しました。公務員試験の準備を進めていたころ、研究室教授の土岐憲三先生から、大学院に進学して、博士課程まで進んで、研究者になるという選択肢もある、そのほうが、あなたにとってはハッピーではないか、とのお言葉を頂きました。研究に興味がありましたので、お言葉を頂いて気持ちが揺れましたが、役所への就職を選びました。

しかし役所に入って、ここは自分の居場所ではない、大学院に行って研究をしたい、という気持ちが日に日に強くなり、思い切って院試を受け直し、同級生に1年遅れで大学院修士課程に進学しました。

私は研究者になるのに一年遠回りをしましたが、その遠回りがよかったと思っています。自分と向き合い、本当にやりたいことが分かったからです。今は自分の居場所が見つかり、好きな研究をさせて頂いている、という感謝の気持ちでおります。研究者の道を勧めてください、再び温かく迎えてくださった土岐先生には感謝しています。

大学院に進学してからは、学外の研究委員会に参加する機会を頂いて、研究室の外に世界が広がりました。他大学の先生や院生との交流を通して、地震工学には様々な研究分野（地震動、構造物、地盤、防災、等々）があることを知りました。少しずつ知識が身につくにつれ、議論に参加できることに喜びを感じながら、充実した日々を過ごしました。

博士課程の途中で、九州大学の塚久哲先生の研究室

で助教としてお世話になることになりました。民間企業との共同研究が盛んな研究室で、技術者の方とお仕事をされる機会に恵まれ、実務のことを広く勉強させて頂きました。自分の学位論文の研究に取り組みつつ、学生指導や、委員会活動、共同研究などに参加させて頂きました。また、夏休み期間に2か月ほど、イギリスのケンブリッジ大学に留学する機会も与えていただいた塚先生には大変お世話になりました。

そうこうしているうちに、京大に異動することになりました。1年目は、小池武先生、五十嵐晃先生の研究室でお世話になり、好きな研究に専念させて頂きました。小池先生と五十嵐先生の、研究に対する真摯な姿勢に触れたこの頃から、浅く広い研究でなく、研究テーマを絞って、深く詳しい研究をしていきたいと思うようになりました。

2年目、現在所属する清野純史先生の研究室に異動となりました。清野先生は、学生時代からお世話になっている、強くて優しく包容力のある先生です。研究室は、清野先生の人柄に惹かれて集まってくる学生や共同研究者で活気に満ちています。毎日研究室で楽しく過ごすことが出来ているのは、ひとえに清野先生のお人柄のおかげと感謝しています。

これまでを時系列で振り返ってみて、改めて、自分は恵まれた環境で周りの方に支えられてこれまでやってこられたと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、自分が与えていく側になって、恩返しをしていきたいと思っています。そして今年は、2011年の東北地方太平洋沖地震から5年目となります。当時、津波被害の映像を見て、被害の大きさに言葉を失ったことが思い出されます。兵庫県南部地震以降、土木構造物の耐震設計は大きく進歩しましたが、東北地方太平洋沖地震を経験して、新たな課題が多数見つけられました。地震工学者が取り組むべき研究課題は、まだまだたくさんあります。自分の研究成果が、問題解決に少しでも貢献できるように、自分のペースで、精一杯、研究に精進していきたいと思っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>